

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100087		
法人名	メディカルケアサービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム川西東多田		
所在地	川西市東多田1丁目17-13		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	兵庫県尼崎市立花町2丁目13-32		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーション・行事の充実、自立支援(調理・そうじ・洗濯・買い物・ゴミ出しなどの家事)の徹底、野菜作りや花壇の世話・書道・絵画への取り組みなど、快適で活気ある生活支援に努めております。そして、ホーム玄関やフロア等、季節に応じた演出を行い、明るく楽しい雰囲気作りにも努め、また、衛生管理には力を注ぎ、毎日の居室館内の清掃、月1回空調・窓・キッチン清掃など実施しています。各フロアには、加湿器を複数設置し、冬季の感染防止に努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から少し離れ田んぼが残っていて、近くに山々が見られ空気のきれいな閑静で高齢者の生活には適切な場所にある。施設にはそれぞれ趣味を同じくするクラブなどがあり、日常生活にメリハリを持ってもらいよりよいケアに生かされている。介護職員同士のコミュニケーションも良くイキイキとケアに従事されている。地域とのつながりもよく、隣接の空き地を地主さんより無料で提供を受け野菜の栽培をされていて料理に使われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を事務所に掲げ、職員も周知している。また、その理念を目的に置き、各ユニット・各職員が目標設定し、それに向けて努めている。	ホームの運営理念は三項目で非常に分かりやすく簡潔にまとめられていて、職員もその理念を念頭におき日常業務に従事しているが、入居者および家族、一般の方にも理解を得るよう掲示場所の再考が望まれます。早速玄関に掲示されました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・秋祭りなどへの参加。 認知症サポーター養成講座への参加・取組み ホーム行事を地域に広報(回覧板など)し、住民が参加できる取組み実践	地域との付き合いの一番の近道は、近隣の方々と親しみを持って関係を密にすることで、開設から地域に溶け込むように努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の主催 認知症ケアへの相談・GHの見学・他種施設の説明	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、家族代表・自治会長・民生委員・地域包括などと意見交換し、その内容を実践に取り入れている。	開設以来年月も浅いが運営も軌道に乗っているとされるが、今後新たな問題も出てくると考えられる。運営推進会議各位の一層の努力を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組み積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	川西市には、運営推進会議の議事録を提示。 事故報告の徹底。 地域包括支援センターとは、地域交流の取組み相談・新入居に繋がる相談など。	川西市との連絡を密にして事故報告などの徹底。地域包括センターとの地域交流の取組み相談や新入居者に関する情報交換など交流を持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、全体会議で自らの支援方法を振り返り、反省する時間を持っている。 11月のホーム内研修のテーマとした。	毎月、全体会議で振り返り反省の情報交換をされている。外来者のトイレの施錠と徘徊者がいるとすることで玄関の施錠がされている。	玄関から徘徊の様子が確認できないとのことですが、センサー等の取り付けなどでその方法を考えて、開錠に取り組むことを期待します。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、全体会議で自らの支援方法を振り返り、反省する時間を持っている。 11月のホーム内研修のテーマとした。	毎月の全体会議録をみると熱心に討議されている様子がうかがえる。今後も一層の努力を望みます。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	8月にホーム長が外部研修に参加した。来年1月のホーム内研修にて、職員に指導する予定。	管理者の研修のみならず各種研修に参加した職員は、出来る限り早い時期に全職員に伝達研修を行い共有されるようしてください。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などには、十分時間を費やし、一項目ずつ利用者様・家族様に確認しながら、説明している。	初めて施設を利用される方は、新しい言葉や聞きなれない用語などについて丁寧に説明をして理解を得るように努力されている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの要望は、来館時随時受けている。奇数月の運営推進会議や、年に2回の家族会でも、意見交換を実施している。	家族からの意見、要望は積極的にお聞きし、本人または他の入居者にも歓迎されるような施設での生活に反映するように努力されている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議・全体会議を開催し、意見交換している。また、各種チーム会議も定期的実施し、各職員の意見を吸い上げるよう努めている。	スタッフの定例会議も確実に開催し積極的に意見の交換をされ、その内容も記録されていてレベルアップに努めておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場職員の立場に立ち、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム内研修を義務つけると共に、関西エリアでの研修の充実、外部研修への情報提供を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川西市グループホーム連絡会に参加し、情報交換している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談は、必ず本人様とも行き、信頼感家の構築と、ホーム生活への不安軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の方を支える事の大変さ、家族同士の辛さなどを傾聴する。その上で、GHでの暮らしを説明し、今後、家族としての役割を明確にできる助言を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談は、HLとCM或いはULなど2名で行い、し情報収集を確実に行うことで、適正な生活支援を提案するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など共に行い、年長者として、入居者様からその方法を教えて頂くような関りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外食の機会や毎月の行事・レクリエーションへの参加、ボランティア紹介など、家族様も共にホーム運営に関して頂く様提案している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣者・友人知人の訪問受け入れや、訪問者と共に、自宅に戻る機会を設けるなど、関係性継続への支援に努めている。	当施設利用者は近隣の方が殆どで家族、知人の訪問も多く、入居者も大変楽しみにされている光景が見られるとのこと。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの過ごし方を観察し、適宜座席の入れ替えなど行き、和やかに過ごして頂く配慮を行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたまま退居になるケースや特養などに転居されるケースなど、その後も家族様に連絡し、本人様の近況を伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のやりたい事・出来る事への支援は、個別に実践している。また、様々な取組みへは、自由参加を基本とし、無理強いはしていない。	ボランティアさんによる習字、絵画、手芸、園芸など入居者の個々の自発的な考えで参加されていて、その作品が多く掲示されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各居室には、馴染みの家具などを置いて頂き、アルバムも持参して頂いている。それらを観ながら、生活暦を確認し、生活支援に繋いでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様を個別に観察・生活支援し、きちんと記録している。申し送りを徹底し、職員間での情報に漏れが無い様努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス日程が、家族様と合わず、職員だけの会議になっている。本人様や家族様からは、要望をお聴きし、それを職員間で共有する様にしている。	入居者が施設で楽しく日常生活を送っていたための基本的な計画を作成されている。家族、入居者の思いを十分にとらえ介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・ケア日報・各種チェックシート・ヒヤリハット気づきのシートなどを活用し、記録を徹底している。また、ケアサービス内容チェック表にて、確実なケアプランの実践を確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の積極的取入れや、ホーム内環境整備に努めている。また、専門的医療機関への受診同行を、職員が支援する取組みも行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣保育所との連携にて、子供たちと関る時間を持つ事。 地域が開催している、コンサート・体操クラブへの参加など、積極的に関りを持っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続して利用される場合の受け入れや、提携医療機関への窓口を行うなど、適切な医療を受けて頂けるよう努めている。	殆どの方が入居以前からの主治医を受診されている。近隣の総合病院、歯科医院と提携し、入居者の健康管理に万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤には、各入居者様の日頃の生活状況を報告し、また、休みの日には、介護職判断できない事を電話相談するなど、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月近隣病院には訪問し、関係性継続に努めている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時、24時間医療体制や看取りへの取り組みについて、文書を提示し説明している。	入居契約時に十分説明をして、家族さんに理解を得ている。緊急時には提携協力医院の対応が出来るようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED研修・外傷手当・薬の学習など、各研修とOJTなどにより、基本的な知識は身につけている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は、年に2回実施。また、避難時の地域への協力など、自治会長と話し合いの場を持っている。	近くに消防署分室また地元の消防団もあり、協力体制は十分に出来ていて、消防署には直結の連絡網があり万全を期している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各スタッフには、日頃から接遇面への指導をしている。11月のホーム内研修前には、自己の振り返りを行うアンケートを実施した。	人生の先輩の方々の介護をされているのでプライドを尊重し日常のケアに接しておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けなど、各入居者様に合わせ、自己決定しやすいように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様のペースに沿うよう努めているが、毎日の散歩が午前中など、ホーム側の都合に合わせて頂いていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が衣服などを選んで着用できるように支援している。整髪や散髪も、ご本人様に希望を聞いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米洗い、味噌汁の具材を切る、味見をする、盛り付け、配膳・下膳、食器洗いなど、各入居者様ができることに参加して頂いている。	専門の調理師が勤務し、その人の指導により入居者も各人が出来ることをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、飲み物などは嗜好に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは、毎食後行うよう促し、その後職員が歯間ブラシなどで仕上げをしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄リズムを掴む様努め、トイレ誘導・声掛けを行なっている。	入居者個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を基本とされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維・乳製品が摂取できるよう毎日提供している。また、散歩やラジオ体操など、体を動かすアクティビティーも毎日実施している。内科医の指示にて、緩下剤での調整も実施している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や入浴日は、ホーム側の都合が多い。しかし、本人様への意思確認は必ず行っている。	入浴は毎日午後実施している。入居者の希望により週2~3回入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床の時間は、各入居者様の生活リズムに合わせる様努めている。各居室のエアコン・加湿器の調整を支援し、快適に休める環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能を個人ファイルに綴じ、職員が確認している。また、服用方法も、白湯やゼリーなど、各入居者様にあわせた対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜作り、花壇の世話、金魚の餌遣りまた、書道・絵画など、各入居者様の趣味嗜好にあわせ、参加して頂いている。また、レクリエーションや行事も、毎月複数実施している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日午前中は、散歩に出掛けている。買物・地域での催しには、個別対応している。時折、家族様との外食レクや、職員との喫茶レクも実施している。	冬季又は散歩に不向きな日以外は、午前中に出掛け外気の吸収、日光浴に心がけておられる。10月はスカイパーク、11月は万博公園に遠出されている。	



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物同行の際、財布を手渡し、入居者様に支払って頂くよう努めている。その際、混乱されない様、職員がさりげなくサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様から希望があれば、家族などに電話できるよう支援している。また、携帯電話を持っておられる方にも、掛ける際の支援をしている。手紙は希望があれば支援し、年賀状など季節のご挨拶は毎年作成支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、できる限りカーテンを開け、外の景色を見て頂く。また、季節の花や装飾品などで飾り、楽しく明るい環境を演出している。トイレ・風呂には、分かりやすい掲示を行い、混乱を防いでいる。	開設されて1年余りの施設で清潔感が感じられ、採光も良く明るいリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や踊り場、玄関前に椅子を設置し、自由に利用して頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時など、馴染みの家具や仏壇、家族写真など持参して頂き、居心地良く過ごして頂ける様配慮している。	入居者の居室は明るく清潔感が感じられ、夫々が工夫された生活の場を作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札やトイレ・浴室の表示を行い、館内移動に混乱を招かない様配慮している。		

## 基本情報

事業所番号	2893100087		
法人名	メディカルケアサービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム川西東多田		
所在地	川西市東多田1丁目17-13	電話	072-790-2600


【情報提供票より】平成 25年11月15日

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 24年5月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人	非常勤0人 常勤換算14人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り2階建て1・階部分		
------	---------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり1,050円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	85.05 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人協和会協立病院、医療法人夕日丘デンタルクリニック
---------	------------------------------